６０１１－１８８２
平成２８年２月２日

各関係機関の長
各病害虫防除員　殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成２７年度病害虫防除情報第１１号

いちごの病害虫対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

うどんこ病の発生が平年より多い傾向にあります。
早期発見に努め、発生初期の防除を徹底しましょう。

１　作物名　　いちご

２　病害虫名　　うどんこ病

３　発生状況（経過）

１月中旬における巡回調査の結果は、次の通りであった。

・うどんこ病（葉）
　発生面積率：61.6%（前年30.8%、平年38.5%）　平年よりやや多
　発病葉率　：13.7%（前年1.5%、平年2.8%）　平年より多

・うどんこ病（果実）
　発生面積率：46.2%（前年7.7%、平年4.5%）　平年より多
　発病果率　：4.1%　（前年0.2%、平年0.2%）　平年より多

葉では、発生面積率は過去１０年同時期で３番目に高く、発病葉率は最も高い数値となっている（図１、図２、図５）。

果実では、発生面積率および発病果率ともに過去１０年の同時期で最も高い数値となっている（図３、図４、図６）。

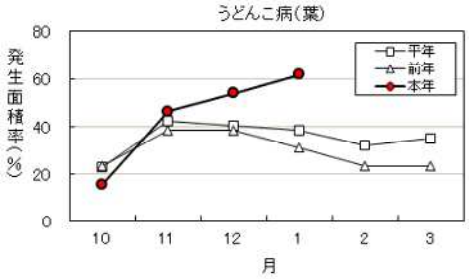

図１　うどんこ病（葉）の発生面積率

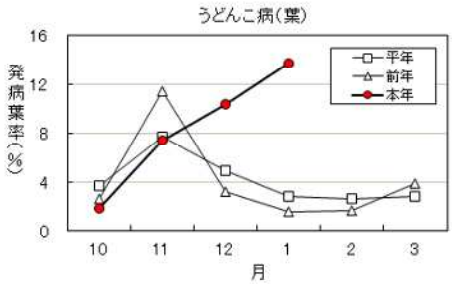

図２　うどんこ病（葉）の発病葉率

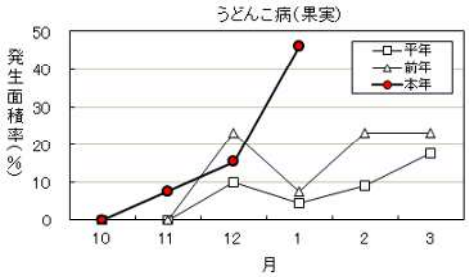

図３　うどんこ病（果実）の発生面積率

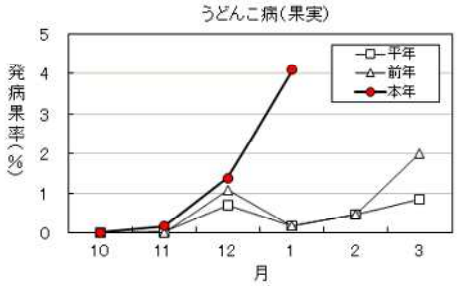

図４　うどんこ病（果実）の発病果率

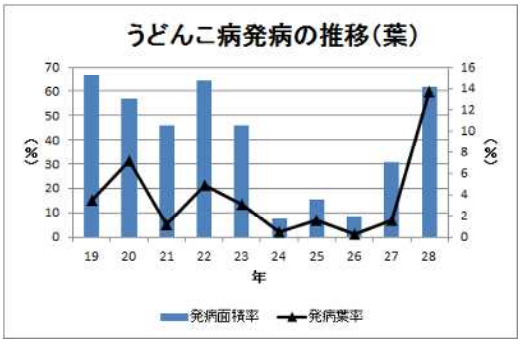

図５　過去１０年における発生推移（葉）

注）いずれの年も1月中旬の調査結果による

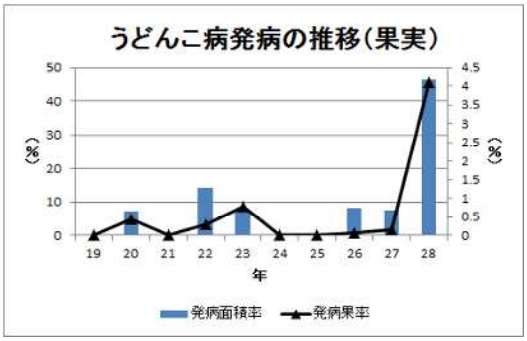

図６　過去１０年における発生推移（果実）

注）いずれの年も1月中旬の調査結果による

４　防除上の注意

１）一般的に、各作物のうどんこ病は比較的乾燥した条件で発生するが、いちごうどんこ病は多湿・乾燥いずれの状態でも発生がみられる。高湿度条件にならないようにハウス内の通風、換気に努める。

２）葉・果実・葉柄・果梗・蕾に発生する。蔓延すると防除が困難になるので、発病前から定期的に予防散布を実施する。

３）草勢が衰えたとき（結実、収穫期）に多発生する傾向があるので、草勢低下を防止するために適切な栽培管理を行う。

４）発症した葉・果実は可能な限り除去し、すみやかにほ場外に持ち出し適切に処分する。併せて、できるだけ早く防除を行うが、葉裏・果実にしっかり薬液がかかるように丁寧に散布する。

５）予防散布を中心に防除を実施するが、発生が多い場合は一週間程度の間隔で連続して防除を行う。その際、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統のローテーション散布に努める。

６）農薬の選定に当たっては、天敵およびミツバチへの影響を十分に注意する。

５　その他

１）農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

２）その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

《連絡先》
宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
（病害虫防除・肥料検査センター）　久野
TEL：0985-73-6670　FAX：0985-73-2127
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp